

7 審査結果の意見・講評

令和2年度水道事業会計の審査の結果、会計処理や決算事務について、一部に事務処理の誤りが見られ、決算書や決算附属書類の修正を求めたものがあつた。誤りの原因は、職員の確認不足や不注意、課内の確認不足であつた。前年度にチェック機能をはじめとした内部統制の強化を求めたところであるが、業務チェック機能の改善には、要員の育成確保、組織の強化が求められる。

(1) 事業概要

水道事業は、主に老朽化している配水管等の更新や水道施設耐震化など安定給水の取組を計画的に進めている。

本年度は、ビニル製配水管をはじめとする経年配水管の更新のほか、配水本管の耐震化事業に取り組んでいる。配水本管の耐震化事業では、供用開始から90年以上が経過していた北部配水本管の切替えが完了している。放光寺浄水場監視制御システム更新工事等も実施している。

(2) 経営成績及び財政状態

収益的収支については、総収益は前年度から増加したが、それ以上に総費用が増加したため、純利益、経常収支比率ともに前年度から減少している。収益の中心である水道料金は微増している。

経営指標については、ほとんどの指標が全国平均と比べて良好であるものの、今後も企業債償還は続くため、余裕のある償還能力の確保に努められたい。

(3) 意見・講評

給水収益（水道料金）は、前年度と比較すると363万4千円（0.1%）増加に転じている。有収水量は減少傾向にあつたが、コロナ禍によるステイホームで一般家庭用需要が4.1%増加したことが主な原因と考えられる。令和3年度からの10年間を計画期間とする「久留米市上下水道事業経営戦略」（以下「経営戦略」という。）では、人口減少や一人当たりの使用水量低下などにより給水量は減少傾向が続くと推測している。その一方、施設・管路等の大量更新や防災・減災対策に多額の費用が見込まれ、経営環境は厳しさを増すことが予想される。

水道は、住民生活のライフラインであり、将来にわたって事業を継続していく必要がある。需要を見極め、水道事業の基盤強化に取り組まれることを望む。